

第5回 高速道路のあり方検討有識者委員会

議事概要

1. 日時

平成23年6月14日(火)11:45~13:30

2. 出席者委員

寺島実郎座長、家田仁委員、石田東生委員、逢見直人委員、太田和博委員、小幡純子委員、森本淳之委員

3. 議事

- 1) JR貨物からのヒアリング
- 2) 内航大型船輸送海運組合からのヒアリング
- 3) これまでの議論の概要を踏まえた中間討論

4. 議事概要

○JR貨物、内航大型船輸送海運組合から、東日本大震災への対応と、高速道路料金に対する要望等について説明がなされた。

- ・震災を踏まえた各交通モードの多様性の維持の必要性
- ・交通政策における受益と負担の関係
- ・物流モーダルシフトの考え方

などについて意見交換がなされた。

○東日本大震災を踏まえた緊急提言を7月上旬を目途にとりまとめることとした。

○緊急提言の骨子(たたき台)について、以下の意見が出された。

- ・防災拠点や避難場所としての機能は、第一義的に予定していた目的ではないということであり、想定外ではないのではないか。道路という公共用物の役割は非常に大きく、広いものと考えていく必要があるのではないか。
- ・ハードとソフトの組み合わせについては、「情報収集・集約・提供等」という一般的な言葉ではなく、道路の有効活用策についての情報を発信していくこととすべきではないか。

- ・被災地の中の高速道路、三陸縦貫自動車道、常磐道の北部については、復興のため、前倒しの整備というメッセージを出していくべきではないか。
- ・今回の震災は、国の総力を挙げた対処が必要であり、その中で、東北地方整備局が果たした役割が非常に大きかったことから、国と地方のあり方、官と民のあり方についても、盛り込むべきではないか。
- ・連携が不足していたということではなく、防災の観点から、補完機能というものを予め作っておく必要があったのではないか。

また、上記の他にも各委員から御意見を提出して頂くことになった。